

添付 5 まとめと提言

まとめと提言

FNCA JFY2012 放射線育種プロジェクトワークショップ

1. プロジェクトの第2フェーズにおけるイネ品質改良育種サブプロジェクトの成果は優れており、また参加各国にとって有益なものであることが認識された。
2. 2013年2月26日、27日に開催された公開セミナー『持続可能な農業における作物の品種改良・生産のための放射線・原子力技術に関するシンポジウム』での発表から、収量を減らすことなく持続可能性を向上することが、農業の最も重要な課題の一つであることが認識された。
3. これに関連し、FNCA放射線育種プロジェクトは2013年度からの第3フェーズにおいて、突然変異育種を利用したイネ生産の持続可能性の向上に関する取り組みに重点を置くべきであると賛成された。
4. 各国において優先度の高いニーズを満たすため、対象とするイネ品種とその変異品種の特性についてはそれぞれの国で決定するべきであると賛成された。
5. モンゴルについてはイネを栽培していないため、持続可能性向上のためのコムギおよびオオムギに関する突然変異育種の研究を行うことが留意される。
6. 収量/投入(肥料と農薬)の比が高い品種、耐病性品種、耐旱性および高温耐性品種、およびその他気候変動への耐性に優れた品種が持続可能な農業に貢献するものであると認識された。
7. 有益なイネの突然変異系統の選抜に、参加各国がイオンビーム照射種子を利用することが奨励される。
8. これに関連し、JAEAが重イオンビーム加速器によるイネ種子の照射機会を提供することを要請する。
9. イネに関する持続可能な農業を推進するため、本プロジェクトが、FNCAプロジェクトにより展開されている植物生長促進剤(PGP)およびバイオ肥料利用との可能な相乗効果を考慮することを提案する。
10. 2012年から始まったIAEA/RCA突然変異育種プロジェクトは、地球温暖化・気候変動への順応性向上に関する作物の開発に焦点を当てていることが理解された。また、イネの突然変異育種、突然変異技術、人材育成等の分野でIAEA/RCAとの可能な協力を行うことが提案された。この協力は、専門家交流や会合等の共同活動を通して行われ、共通の関心でなければならない。
11. 原子力研究機関における突然変異育種の研究開発チームは、プロジェクトの計画段階から突然変異品種のエンドユーザーである農業部門との協力を推進すべきであると賛成された。
12. 結論として、第14回コーディネーター会合がイネに関する突然変異育種プロジェクトの第3フェーズへの延長を承認することを要請する。